



松風台自治会

防災会だより

第58号 発行 2021.03.01

発行責任者

防災副会長 行正龍昭

1. 2020 年度防災会活動まとめ

今年度も防災会規則に定められた下記の4つの事業について、17項目を計画しました
新型コロナの影響による中止の5項目以外は全て実施しました

- 1.防災についての知識の普及
- 2.防災訓練の実施
- 3.防災用資材、機材の維持管理
- 4.その他、必要と認められること

目次

- 1 2020 年度防災活動まとめ
- 2 防災用資機材の性能点検
- 3 自治会館の停電時電源確保
- 4 防災用資機材の棚卸し
- 5 大地震時安否確認訓練
- 6 自治会館の備蓄倉庫
- 7 新型コロナ禍での防災活動

2.防災用資機材の性能点検

いつ突然発生するかもしれない大災害に備えて、設備性能が常に100%発揮できるように3か月に1回の性能点検を中断することなく継続しています。

点検対象は、東、南、西公園の防災倉庫に収納されているエンジン放水ポンプ、エンジン発電機、デジタル無線機などです。特にエンジンは冬場の低温時、始動しにくいいため、点検が重要となります。

エンジンポンプは購入後約15年経過しており、高額なため、長持ちさせる必要があります。

したがって、寿命まで使い切った後は消火栓使用による消火活動に代えてゆく予定です。

デジタル無線機は昨年アナログ無線機から変更したもので新しい操作が必要であり、全員が習熟できるよう訓練してバッテリーの充電状態も確認しています。

また、周辺の自治会(みずき、香川、甘沼、鶴が台など)も同じ無線機を保有しており、合同で通話訓練を行う予定でしたが、コロナ禍のために来年度以降に延期になりました。



12月 資機材の性能点検



エンジンポンプ性能確認

3.自治会館の停電時電源確保

大災害時の停電対策として自治会館新設時にソーラーパネルが設置されました

しかし、ソーラーパネルに蓄電池を備えていないので、夜間や曇りの日は電源がありません。

その対策として、従来の体制は、エンジン発電機で全館の照明を確保できます

しかし、ガソリン保有量を1~2昼夜程度しか確保できません。

今年度は、その予備電源として新たに簡易蓄電池を2台購入して電力を確保しました。

容量は700Whであり、LED電球(20W相当)により自治会館1階の照明を約3昼夜使用出来ます。



簡易蓄電池

4.防災用資機材棚卸し

3年毎に行っている「棚卸し」を実施しました(7月)

防災倉庫には、78種類、508点の防災資機材が保管されてあります

各倉庫責任者を決め、3~4人のグループに分けて資機材配備表に基づき前回棚卸しからの増減を調べました

主な増減品目

廃棄;エンジン2台、アナログ無線機3台、期限切れ乾電池66本、

補充済;LED投光器3台、LEDランタン6台デジタル無線機4台

要購入;乾電池78本、

必要性検討;停電時対策としてエンジンに代わる蓄電池、新型コロナ対応用品としてマスク、

洗浄液、体温計など

なお保管場所として、自治会館2階の備蓄倉庫を加えました



棚卸し前の段取り説明

松風台自治会防災倉庫
2020年7月04日現在

用途	No.	品目	規格・仕様	防災用資機材配備数			備考
				総数	庫内	倉庫	
共通	1	防災倉庫	開口3m×奥行3m	3	1	1	あざGS
	2	天幕	3間×2間	1	0	0	101年自治会館から移
	3	天幕	2間×1.5間	3	1	1	
	3.1	三角幕	天幕の三方囲い用	2	1	1	
	3.2	プライベートテント	1m四方	6	2	2	2012.12購入
4	ヘルメット	PE製(白またはカラ)	31	6	6	10 隊員用は自宅	
5	防災倉庫	松風台防災倉	1	1	1		
消火活動	1	消火器	CA-10E(B)ABC粉末3kg	3	1	2	H19.9購入
	2	簡易消防ポンプ	トーパフV20D	2	1	1	助成機品
	2.1	消防ホース	65φ×20m	20	0	4	助成機品
	2.2	吸管	65φ×6mストレッチ付	2	1	1	助成機品
	2.3	管籠	65φハンドル付	4	2	0	助成機品
	2.4	ノズル	スリット・噴霧ノズル	5	2	1	助成機品
	2.5	消火栓開閉ハンドル	路上消火栓開閉用	5	2	1	2012.12購入
	2.6	搬送用キャリー	消防ホース搬送用	5	2	1	2014.7月購入
	3	三角消火バケツ	ABS製 7リットル	0	0	0	

資機材配備表

5.大地震時安否確認訓練 2020年11月29(日)13:00～15:00 南公園

この訓練は2020年1月に全戸配布した『大地震発生時の防災行動指針』に基づく『自分や家族の安全が確認でき、玄関に白いタオルを表示する』訓練であり、昨年に続き571戸全員を対象に、39名全ての自治会班長が自分で所管する全戸を訪問してインターホンを通じて安否を確認しました。

①全戸で大地震発生時は自分と家族の安全を確認して白いタオルを表示



Pm1:00 花火を打ち上げ地震発生の場合。
班長が巡回したときに容易に判るように表示
されていました。



②防災会員は、南公園に集結して災害対策本部を設営



Pm1:10～南防災倉庫からテント、机、照明などを取り出して公園に設営を開始

③自治会班長は、班内の安否確認結果を本部に次々と報告



Pm1:30～自治会班長は確認結果を次々と報告に訪れ、全ての班長から報告を受領した。



④安否確認結果まとめ

白いタオル	安否確認の結果	世帯数
表示あり	安全を確認できた	460戸 81%
表示なし	在宅だが表示忘れ	71戸 12%
訪問結果	不在で外出の様子	40戸 7%

全ての班長からほぼ所定時間内に漏れなく報告を受け、全戸の81%も安全が確認できたことは、昨年度64%よりも大幅に改善され、防災行動に対する意識の向上が読み取れます。

6.自治会館の備蓄倉庫

大災害が発生した場合、自治会館は2つの役目を考えています。

- ①災害対策本部を設置 松風台全戸からの被災状況を集約して火災発生の場合は消火メンバーを編成などして消火にあたり、怪我人などの移送・救護などの指揮を司る。
- ②怪我人の応急処置 移送されてきた怪我人の応急処置を行い、重傷者は医療避難所(香川小学校・鶴が台中学校)への移送を指揮する。

これらの目的のために、

新自治会館建設に際し、2階部分に備蓄倉庫室が設置されました

備蓄倉庫は 2011 年に発生した東日本大震災による防災への関心の高まりから整備されるようになりました。

備蓄倉庫には現在下記の防災関連備品が収納されています

本部用品： 要支援者/安否確認者名簿、ヘルメット、蓄電池、乾電池、防災無線機、電気設備取扱説明書類

救護用品： サラシ、三角巾、消毒用ペットボトル水、マスク、アルコール消毒液



備蓄倉庫

7 新型コロナ禍での防災活動

以下は政策研究所高松孝親氏の論文「ウィズコロナの災害対応を考える」を要約したものです
新型コロナの影響により防災訓練中止発表の自治体が見られ、中止も止むを得ないと判断されます
災害時対応における三蜜防止の観点から新たな防災訓練の提案

- ① 対策本部設置での座席配置などレイアウト検討の工夫
- ② 参集人数、機会を必要最低限にする工夫

ここでは②について、「オンライン会議アプリ」活用による遠隔地情報伝達訓練の提言
これによる新たな期待効果として

- (1) 相手の様子が見える、感じられる→災害現場での新たな発見、気づきが得られる
- (2) 参加者の「普段の環境」を「災害時にどうするのか？」目線で实际的にチェック出来る
- (3) 参集困難な方の参加可能
- (4) アプリの録画機能を活用
- (5) 現地訓練参加者人数を一定絞り込める(三蜜の低減)

現状のデジタル無線機での音声による情報伝達をさらに高度化するという事です

編集後記:

これまで、大災害として地震、津波、大雨、火災などを対象として活動してきました
2020 年度は新型コロナによりかなりの活動がストップし、身の安全も真剣に心配するよう
になりました、これはまぎれもなく大災害です
短期間で得た新型コロナという大災害に関する知識は大変な量です
若者から高齢者まで被害にあう可能性があります
松風台一丸となって、新しい大災害に立ち向かいましょう

—以上—